

参加報告書

- 参加プログラム: 中国語現地実習 国立台湾師範大学
- 学部・学科: 国際教養学部国際教養学科 グローバルスタディーズ専攻
- 留学時の学年: 2年

参加の目的

これまで長年にわたり、そして大学入学後はさらに、英語を使って会話し、学ぶ機会がたくさんありました。将来は培った英語力で、世界中から日本に訪れてくる観光客に対しおもてなしができる人材になりたいと考えていました。しかしながら、多くの観光客を目の当たりにして、グローバル化が進む中、日本における英語以外の言語の需要も高まっていると感じました。その中でも、話者数も多く高校時代から特に興味があり独学で勉強していた中国語を使えるようになりたいと思い、今回のプログラムに参加しました。

現地での活動

台湾は比較的日本語が通じる場所もあると聞いて渡航しましたが、そのような場所は減多になく、英語もほとんど通じなかったため、到着後数日は苦労しました。今回は一人で参加したということもあり、不安と緊張でいっぱいでしたが、頼りになりとても優しくルームメイトと、大学で出会ったたくさんの友人に支えられ、有意義な研修を送ることができました。

クラスメイトはほとんどが日本人でしたが、一人の韓国人とも友達となり、私の台湾での生活は、日英中韓の4ヶ国語を併用して会話をしていました。私がやりたかったことが実現しながらも、言語の重要性に気付かされました。

授業は午前のみだったため、午後と休日にたくさんの場所を訪れることができたのは、このプログラムの魅力の一つでした。カフェやレストランはもちろん、観光地や寮でも、中国語を使って会話することを徹底していました。ミスを恐れずに話すことが学んだことの応用につながったと感じています。さらには授業で学んだことをその日のうちから友人との会話に取り入れて、自分の言いたいことが中国語で表現できるように3週間意識し続けられたことは、上達につながったと思います。

大学の校外学習だけでなく、自分たちで調べながら観光地へ行ったり、寮が他の学生と比べて遠方にあったので、MRTとバスを乗りこなせるようになってローカルな生活に馴染めるようになったりと、学習面以外での成長もとても大きかったです。帰宅後は通った大学の違うルームメイトとお互い学んだことを共有し合い、知識を広げることもできました。小テストがあったことで、自習の時間が取れたことも、自分の成長につながりました。

参加する前は、これほどの新しい友人に恵まれ、3週間での中国語運用能力の伸びを想像していませんでした。期待以上の経験ができて、日本食が恋しかったこととは裏腹に、帰る頃にはこの生活が終わってみんなと離れ離れになってしまうことが寂しかったです。3回設けられていた交流会、

校外学習や寮でそれぞれのコミュニティができ、外国人も含めた多くの人と交流できたことがとても嬉しかったです。そして、現地の人の暖かさを感じることができたのも思い出です。満員のバスの中、椅子を譲ったおばあちゃんに「あなたの荷物重そうだから持っていてあげるよ、チャック閉めてあるから安心よ」と言われ、降りるバス停まで持っていてくださったことがありました。

また、ショッピングモールで買い物している時に明るく話しかけてくださって、おすすめのことを教えていただいたり、公園の屋台では私たちの大学について質問してくださった店員さんと簡単な中国語で会話したりといったことは、とても印象に残っています。

学び・気づき

このような経験も通して、最終週には店員さんに中国語で自分から質問ができるようになり、自信もつきました。このプログラムに参加して、言語の効率的で楽しい学び方、そして言語が繋げるコミュニティの広さを実感することができました。

このような有意義で人生の大きな経験となったプログラムに参加できて、一緒に生活し学び合ったルームメイト、たくさんの場所に足を運び、共に頑張り成長させてくれた友人、台湾の文化要素も交えながら真摯に中国語を教えてくださった先生、そして私をサポートしてくださった両親と全ての方に、感謝の気持ちでいっぱいです。自分から積極的に行動し、学びを自分のものにする力が、このたった3週間で身についたと感じています。これからも大好きな中国語を学び続け、将来の世界の人々とのコミュニケーションに役立てていけるように、努力し続けていきます。

